＊家庭･地域の教育力を高め、青少年の健全育成に努めよう。
＊審議会等政策決定の場へ女性の参加を促進しよう。
＊循環型社会をめざし、地球環境を守ろう。

県婦連 ふくおか

第 57 号
発　行
福岡県地域婦人会連絡協議会
〒812-0046
福岡市博多区吉塚本町13-50
発行責任者　木 下　　幸 子
TEL 092-643-1440

『県婦連活動のより一層の活性化を願って』

福岡県地域婦人会連絡協議会
会長　木 下 幸 子

新緑が眩しい季節となり、吹く風にも初夏を思わせる季節となりましたが、会員の皆様にはご健勝のことと存じます。

日頃より会員の皆様には、それぞれの地域で婦人会活動に積極的に取り組んでいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、ようやくコロナ禍の悪影響から脱しつつある今日、世界においては、ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナやイランとの紛争など、当事者間のみならず支援国等を巻き込んだ深刻な国際問題はなかなか解決の兆しが見えません。

一方、国内においては、新年早々の能登半島地震や最大震度六弱を観測した四月十七日の豊後水道地震など、私たちの防災・減災への取り組みや備えを再確認するきっかけとなるような事象も発生しています。

そのような状況下において、婦人会活動は、現在多くの課題を抱えており、会員の減少、少子高齢化や社会の急激な変化にどのように対応し、課題を解決していけばよいのか、その前段として若年層の会員へどのようにバトンを繋ぐのか、各種研修会への参加や自己研鑽を通じて、会員各自の意識の向上や変革、また会員や地域間相互の情報交流により、いろいろな意見を活発に交換できるような組織を作りあげることが必要不可欠であると考えます。

全国女性団体連絡協議会（全女会）においては、若手後継者育成や防災・減災への備えを強固なものにすることが急務であるとの発想から、各都道府県の地域婦人会に、使途を示した上で、支援金を交付し、当該事業に取り組むことを通して、組織の活性化を図ることを求めています。

県婦連においても、課題意識を共有し、まずは各地域婦人会の実態を把握した上で、四十歳代から五十歳代の会員の掘り起こしや育成、それら若手の会員をメンバーとして、各地域における防災・減災への備えを再確認いただくなど、各地域の活性化に資する事業に取り組む予定にしています。

今年度も皆様方と共に、希望をもって粘り強く頑張って参りたいと考えておりますので、より一層のご協力をよろしくお願いいたします。

令和五年度 標語
四島（しま）想い　心に点す　返還の火

北方領土返還促進 福岡県民集会について

日時　令和6年2月24日(土)
場所　JR九州ステーションホテル小倉
参加人数　43名

一、日本・ロシアを取り巻く情勢について

二月二四日、ロシアがウクライナに軍事侵攻して三年目に突入し、戦争の行方は、依然として先が見えません。令和六年度全国大会にて、岸田文雄総理大臣は、「ロシアによるウクライナ侵略によって日本、ロシア関係は厳しい状況にありますが、領土問題を解決し平和条約を締結する方針を堅持してまいります」と述べられました。

二、北方領土問題とは何か

日本はロシアより早く北方四島（択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島）の存在を知り、多くの日本人が渡航し、これらの島々の統治を確立していきました。終戦当時日本人は、一七二九一人住んでいましたが現在は五二〇人、平均年齢は八八歳になっています。

しかし、ロシアは一九四六年四島を一方的に自国領土に「編入」し、一九四八年までに全ての日本人を強制退去させたので、今日までソ連ロシアによる不法占拠が続いています。北方領土問題が存在するため、日本・ロシアでは、戦後七〇年以上を経たにもかかわらずいまだ平和条約が締結されていません。

三、若い世代への理解度が必要

内閣府では、若い世代への北方領土の理解をしていただくため、中学・高校の修学旅行で北方領土隣接地域に訪問をする補助を行っています。啓発キャラクターがSNSで日々発信をしています。また、若い世代による島の語り部や、料理レシピコンテストや、若い世代の感性を活かした議論も行われており、その成果に期待されています。

四、北方領土問題の解決には何が大切か

国が粘り強く外交交渉に取り組むこと。国民全体の問題とすること。政府と国民一丸での取り組みが大切。

☆　県地域婦人会では、学習広報活動を行っている。

こんにちは　桂川町

令和五年度の、移動定例委員会は桂川町にお邪魔いたしました。

まず、定例委員会の会場である桂川町住民センターへ到着すると「県婦人会」の看板が掲げてありとても感動しました。また、大庭教育長の「歓迎」のご挨拶を賜り、又、お忙しい中、私たちを受け入れていただき有難うございました。

事務局の進行のもと定例委員会が終了し、昼食会場へ。そこでは、テーブル毎に会話が弾み、楽しく交流することができました。

昼食会場を後に、王塚装飾古墳館へ。そこでは、学芸員の方々が説明してくださいました。

王塚古墳は日本を代表する超一級の装飾古墳で、最大の特徴は、石室の壁面全体に色彩豊かな文様が描かれていること、石室内部に石屋形や灯明台、石枕などが造られていることです。豪華絢爛な装飾壁画と精巧な内部施設を有することから国の特別史跡（国宝級）の指定を受けられたそうです。この古墳館では、発見当時の原寸大の石室の再現がされていてその中を見学する事ができました。石室全面に赤、黄、白、黒、緑の五色で描かれており騎馬像や絵画的な文様や円文、三角文などの模様があり、古代人の生活に思いを馳せるひと時でした。

今回の移動定例委員会には、桂川町婦人会の方々の多大なるご尽力によるもので、大変お世話になりました。温かいおもてなしに感謝申し上げます。ありがとうございました。

（矢野）

古代くん　未来ちゃん

新任のご挨拶

福津市地域婦人会　会長　井手　和子

改めて役を引き受けたので頑張らないと、と、自分の体にムチを打っている所です。皆様の足を引っぱらない様にします。よろしくお願い致します。

筑紫野市婦人会　会長　山崎　初音

この度、筑紫野地域婦人会、山下会長の後を受け継ぐことになりました山崎初音でございます。まだわからないことが多く木下会長ほか諸先輩のご指導をいただきながら、婦人会の向上に尽くしてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

退任のご挨拶

福津市地域婦人会　矢野　八重子（4年）

福津市地域婦人会の更なる一〇年を目指して「会員減少問題」「社会教育団体としての役割を果たせる団体であり続けるには」「福津市の一翼と成り得る団体であり続けるには」「市の補助金に頼らず自立した団体であるには」について各支部で協議して頂いたにも関わらず、何も解決することなく退任することになりました。七十年以上続いている婦人会の会長という役割の大きさに幾度も押しつぶされそうな日々であったと振り返っています。至る所で自分の役割や立場の限界に悩みながら立ち止まったりしましたが、会員の皆様の熱心な活動が前進のエネルギーとなりました。

又、県婦連の定例委員会では、他の町の情報収集も出来ぶことが大きかったです。大変お世話になりました。ありがとうございました。

筑紫野地域婦人会　山下　美知子（4年）

筑紫野市の山下でございます。

地元・筑紫野市の皆さんと県婦連を繋ぐ大切な役をいただきながら、未熟なため、ご迷惑おかけしたと思います。皆様からの温かいサポートを受け乗り越えることができ感謝に堪えません。ありがとうございました。

長い間ご苦労様でした

庄内女性の会　会長　野上　君子（10年）

日本赤十字デー “ボランティアDAY” 2024

赤十字の創始者、アンリ・デュナンの誕生日である5月8日の“世界赤十字デー”を中心に各地域奉仕団でボランティア活動をしました。

第七十五回結核予防全国大会

低まん延における結核対策

～パンデミックの経験を踏まえて～

日　時　令和六年三月十四日～十五日

場　所　リーガロイヤルホテル東京

結核予防会総裁（紀子妃殿下）の御臨席の下、結核予防全国大会が五年ぶりに開催されました。

結核はかつて国民病と言われた感染症の代表例で、多くの年月と努力が重ねられ、医学、医療の進歩や公衆衛生の向上により、現在では適切な治療により完治する病気となっています。

しかしながら、依然として結核が我が国最大の慢性感染症であることに変わりはありません。

特に近年は顕著な増加傾向にある。外国出生結核患者や高齢者結核患者への対応、潜在性結核感染症の問題など、課題が多様化、複雑化してきています。

本大会を契機に結核予防婦人団体として関係者相互の交流を深め対策の手綱を緩めることなく結核根絶に向けて、果敢に取り組みを積み重ねていきたいと思います。

第63回博多どんたく港まつりに参加

日　時　令和六年五月三日

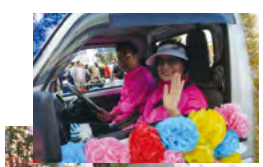
快晴に恵まれ、夏の陽気に包まれてのどんたくパレードとなりました。

新型コロナの5類移行後の初の開催とあって、沿道の観客も多く、県婦連では防災の法被を先頭にピンク、ブルーのブルゾンで参加しました。

福岡県の人づくり・県民生活部の部長さんをはじめ、職員の方にも参加していただき、１２０人余でのパレードとなりました。

昨年は音が聞こえなくて踊りがバラバラだったとの反省から、いろいろと工夫していただき、音源車を隊列の中に入れて、「長生き音頭」の曲に合わせて、炭坑節の振付けで踊りました。

沿道からの声援に元気をもらい、又、婦人会活動をしっかりＰＲできたのではないかと思います。みなさんお疲れさまでした。



春の交通安全フェア in 博多

日時　令和六年四月四日(木)
場所　JR博多駅広場
83名参加

春の交通安全県民運動（四月六日～十五日）の主要行事として、県民の交通安全に対する関心と理解を深めるために開催されました。

県内主要テレビ六局のアナウンサー六名が「福岡県交通安全広報大使」に委嘱されました。

黄色いワッペン寄贈や園児による「交通安全メッセージ」があり県警察音楽隊による演奏の後、街頭キャンペーン実施で終了となりました。

高齢者は特に注意！

歩行者の方へ

高齢者が関係する死亡事故が多発中！
交通事故死者の約四割が歩行者！うち七割が高齢者！
夕暮れ時・夜間は特に注意！

☆　夕暮れ時・夜間は「明るい色の服」、「反射材」を着用し、自分の存在をアピールしましょう！

☆　道路を横断する時は、しっかりと安全確認をしましょう！

☆　特に高齢の方は、車が遠くだからといって、あわてて横断することは、大変危険です！

ドライバーの方へ

交通事故死者の約六割が高齢者！
夕暮れ時・夜間は特に注意！

☆　夕暮れ時の早めのライト点灯！夜間のハイビームの活用！

☆　横断歩道に歩行者がいるときは、横断歩道の手前で一時停止！

☆　特に高齢の方で、雨天や夜間の運転、長距離の運転に不安がある場合、運転は控えましょう！

☆　「ブレーキやアクセルの踏み間違え」や、「標識の見落とし」に十分気を付けましょう！

全国女性防火クラブ連合会総会

日時　令和六年一月二十五日(木)
場所　ホテルルポール麹町

秋本会長をはじめ、総務省消防庁長官、原邦彰氏の来賓挨拶のあと、総会行事が滞りなく終了しました。その後、国の政策動向として、「女性防火クラブと地域防災力の充実強化」というテーマで総務省消防庁地域防災室長、志賀真幸氏の講演があり、女性防火クラブの活動状況や法的位置づけなどの説明がありました。

最後に全国六ブロックの活動報告の中で昨年十月開催された九州・沖縄ブロックの活動を報告しました。各県色々工夫した内容で大変参考になりました。

消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律（抄）
（平成25年12月～制定）

（自主防災組織等の教育訓練における消防団の役割）

第18条　市町村は、消防団が自主防災組織及び女性防火クラブ（女性により構成される家庭から生ずる火災の発生の予防その他地域における防災活動を推進する組織をいう。）、少年消防クラブ（少年が防火及び防災について学習するための組織をいう。）、市町村の区域内の公共的団体その他の防災に関する組織（以下「女性防火クラブ等」という。）の教育訓練において指導的な役割を担うよう必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

○消防団が自主防災組織等の教育訓練に指導的な役割を担うことが、一層の効果があることを改めて強調

○女性防火クラブ及び少年消防クラブについて、初めて、法律上に位置づけがなされた。

※「婦人」という用語が既婚女性に限られる意味で使われることもあり、男女共同参画の進展など社会情勢の変化も相まって、最近では「女性防火クラブ」の名称を使う団体も増えたことから、法律でも「女性防火クラブ」の用語が使われている。

（「“消防団基本法”を読み解く」（近代消防社）より抜粋）

熊本県女性防火クラブ 災害復興祈念大会

日時　令和六年一月十八日(木)
場所　ホテル熊本テルサ

平成二十八年（二〇一六年）四月十四日震度五強、四月十六日、本震M6・4の地震に遭われた人たちの復興に向けての活動報告がありました。

地震を体験すると「いきなり激震ドン」「静寂一変悲鳴響く」「余震過去最多」「眠れぬ一夜」「ライフライン寸断」「奪われた日常」「避難」「死傷者」「また来た」「揺れる大地」「トイレ不足」「物資配送拠点麻痺避難所に届かず」など様々な事を体験、又、「避難場所の学校、グランドの照明をすべて点灯（安心感につながった）」「炊き出しに行くときは、米・味噌など家にある食材を持ってきてもらうと助かります」などの報告がありました。

地震・雷・火事…台風や洪水等は予測不能な時代になりました。特に地震はいつどこで襲ってくるか分からない「魔物」です。突如地を引き裂く不気味なズズンドンの音で恐怖のどん底に引き落とされます。

防災とは、「命がある事」。あらゆる災害に備え、日ごろの心構えが大切です。まずは自分の命は自分が守る。自助→共助、そして公助を待ちましょう。

平常心の心得

備蓄品の確認

3日分～1週間分が望ましい

- ●水　1人1日3リットル×3日分
- ●米　白米、パックご飯、アルファ米
- ●缶詰等　レトルト食品、カップラーメン、ビスケット
- ●その他　カセットコンロ、マッチ、ローソク、電池

※賞味期限切れ等に注意

非常持ち出し品の確認

- ★食料品（1～2日分）　水・缶詰・クッキー
- ★くすり（自分に必要）　絆創膏　包帯・薬品
- ★貴重品　通帳・印鑑　保険証
- ★情報　ラジオ・懐中電灯
- ★衣類　ティッシュペーパー　下着・タオル

地域活動

料理教室　薬膳料理

日時　令和五年九月二九日
筑後市連合婦人会

料理教室は毎年開催している人気行事のひとつですが、婦人会を知って貰う絶好のチャンスと捉え会員外の方々にもお声がけ出来る内容と教えて頂く先生探しに力を入れました。そこで夏休みに親子で参加出来る内容と会員向けに薬膳料理の計画を立てました。先生は正食料理、耳慣れない言葉ですが、説明を聞くと納得することばかりです。身土不二、主食は穀物、調味料は伝統的製法、化学調味料を入れない様にする。生まれてから死ぬまで食は関係し、当たり前なんだけど忘れかけています。

九月二九日薬膳料理教室を開催。調理の前に鶴久ちづ子先生の話に皆真剣に耳を傾けて聞いていました。玉ねぎの切り方にしても横に包丁を入れ半分にし、繊維に沿って切ると味噌汁に入れた時食べやすくなりました。又あずきの食べ方も今までは、ぜんざいしか頭にありませんでしたが汁ものとして使えば、あずきは身体に良いと言う事、取り入れたい一品です。

腹八分は医者いらずって本当ですと言う話や人工甘味料の危険性の話は特に記憶に残る話でした。人工甘味料とは天然には存在しない甘味料の総称です。

「アスパルテーム」…白内障の恐れ、催奇形性、妊婦は特に注意。「アセスルファム」（カリウム）…脳機能障害を引き起こす恐れ（動物実験）。「スクラロース」…ラットの実験で腸内細菌の善玉菌を殺す作用。「ネオテーム」…砂糖の一万倍の甘さ。皮膚の刺激性、呼吸器への刺激性。「サッカリンナトリウム」「アドバンテーム」「モグロシド」「アリテーム」「シクラメート」

自分の健康は自分でつくる食生活を学んだ研修会でした。

久し振りの研修旅行

桂川町婦人会

「コロナウイルス感染症」により、皆で集う活動を中止してきました。「感染症」が緩和しましたので、四年振りに一日研修旅行を実施しました。

ロシアのウクライナ侵攻、イラン・イスラエル戦争など第二次世界大戦を思い出す出来事が続いています。戦争の悲惨さ、恐ろしさを伝えていくためにも、私達がもう一度学ぼうと「大刀洗平和記念館」を訪れることにしました。

一九四五年（昭和二十年）三月七日、特攻隊員を養成していた校舎をB29の大編隊が爆撃、「施設」を学校帰りの子ども達も犠牲になったとのこと。説明や映画を見ながら改めて戦うことの意味を考えさせられました。

帰りは「原鶴温泉」で御馳走を食べ温泉に入り平和であることのありがたさを感じた一日でした。

新たな事業にもチャレンジ

中間市婦人会

中間市婦人会は、四月初旬の遠賀川河川敷鯉のぼり設置を皮切りに、中間市を魅力的な街にするため、無理なく、楽しく、様々な活動を行っています。

昨年は、江戸時代末に伊勢神宮、江戸、大阪などを巡った旅日記「東路日記」を著した郷土の偉人「小田宅子」を学ぶ講座を初めて開催し、当時の女性が高い教養力を持ち、活発に活動したことを学びました。

この小田宅子は中間市出身の名優高倉健（本名：小田剛一）の曾祖母にあたりますが、今年は高倉健が亡くなってちょうど十年です。

中間市婦人会は、この節目の年に高倉健を偲び、遺作「あなたへ」を「なかまハーモニーホール」で十一月十日に上映する予定です。皆様のご来場お待ちしています。

中間市婦人会は、今年もたくさんのご縁をいただきながら、新たな事にもチャレンジし、充実した一年にしたいと思っています。

いのちと暮らしを守る防災について
～だれでもできる楽しい防災訓練について～

那珂川市婦人会
日付　令和六年二月十二日
会場　那珂川市中央公民館

婦人会ではこれまで、防災研修・避難所ボランティアの人たちへの食事づくり、火災予防街頭啓発に取り組んできました。

昨年七月、那珂川市では豪雨により川が氾濫、すぐに対策本部が設置され、十世帯近くの方が避難、婦人会も早速炊き出しをしました。

いつ起こるかわからない災害、早速「市民防災」について学びの場を計画、当日は多くの皆さんに参加していただきました。

第1部　防災講話
「命を守る」
天野　時生　氏　日本防災士会防災士
「地域連携で防災を自分ごとに」
八代　由美　氏　那珂川市自主防災協議会会長

第2部　体験講座（3班に分かれて3ケ所体験）
・避難所体験　ダンボールベッド・簡易トイレ
・水消火器　マンホールトイレ
・防災食づくり　牛乳パックでつくる焼きそば
ハンドライス　味噌汁（味噌玉）

二人の講師の方から「大雨・台風・地震等が発生したらどうするか、被害を最小限におさえるには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をとることが重要です。日頃より防災について関心を持ち、いざというときに「命を守る」行動ができるように心構えを身につけておくことが大切です。」というお話でした。

最後に防災食を参加してくださった皆さんと会員が交流しながら試食、有意義な研修でした。

お知らせ

全国女性団体研究大会（京都）　十月六・七日
女性防火クラブ全国集会（東京）十一月七・八日
移動定例委員会（中間市）　十一月十日
九州地区地域婦人大会（佐賀）　十一月二十五・二十六日
九州地区結核予防婦人団体幹部講習会（宮崎県）
九州ブロック女性防火クラブ幹部地域研修会（大分県）
九州八県赤十字大会（福岡市）　十二月十七日

編集後記

第五十七号を発行することが出来ました。
お忙しい中原稿をお寄せいただき、本当にありがとうございました。
今後も笑顔で婦人会活動が続行出来ることを願っています。

編集委員
池田穂波、川野栄美子、横溝敏子、
廣石福子、古場弘子、五十嵐多喜子、
江上昭子